令 和 7 年 1 0 月 2 0 日 教 育 課 程 部 会 特別活動ワーキンググループ 資 料 2

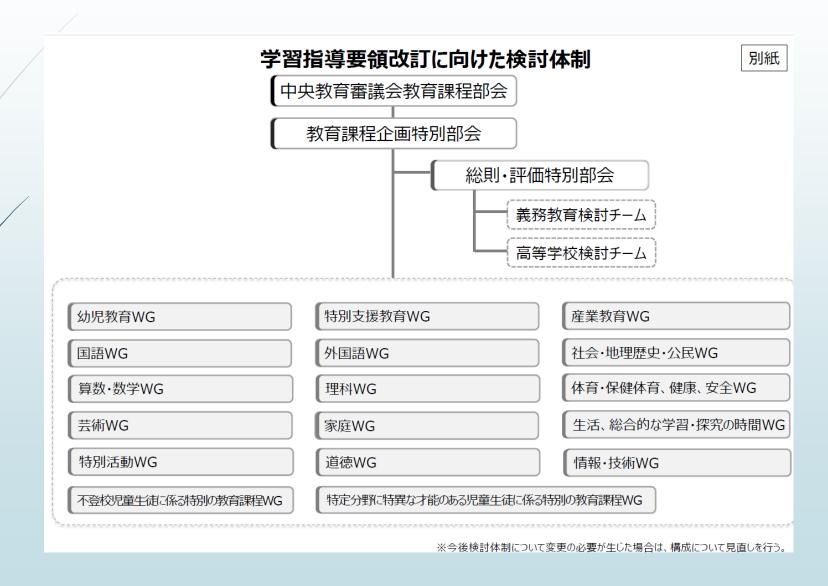
第13期中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 特別活動部会(WG)

恒吉僚子

文京学院大学副学長、東京大学名誉教授

教育課程企画特別部会 論点整理より

https://www.mext.go.jp/content/20250925-mxt_kyoiku02-000045057_01.pdf



特別活動の役割

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

~あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化~

主体的・対話的で

深い学びの実装

主に第2.3.4.6章 (生きて働く「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体化・深化、「好き」を育み「得意」を伸ばす、情報活用能力 の抜本的向上、個別最適な学び・協働的な学び 等)

多様性の包摂

(授業時数の適正化・平準化、教科書の精選、構造化、裁量的 な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出、 カリキュラム・マネジメント 等)

(調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る 教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザ

実現可能性の確保

(Feasibility)

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備

「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、

自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

補足イメージ1 - ②

自らの人生を舵取りする力と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成 (今後の検討イメージ)

「好き」を育み、「得意」を伸ばす

当事者意識を持って、自分の意見を 形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

多様な子供を誰一人取り残さない

視点としての個別最適な学びと協

働的な学びの一体的充実

課題設定 の充実 主体的な進路選択の促進好き・得意をベースとし 高 グループ探究 個人探究 中 総合 幼

生きて働く「確かな知識」の習得

興味・関心が広がる 教材・学習方法の選択を促進

自分の意見を表現する活動の充実 探究的な要素を持つ学習活動の充実

家庭学習の内容を自律的に決めら れるような段階的指導 (家庭学習はじめ学習習慣の確立を含む)

各教科等

科学的知見も生かした

効果的な指導計画・授業方法

児童生徒の学習方略の指導

児童生徒主体のルール 形成や学校生活改善、 行事の創造等の明確化

(みんなが学びやすいルールや環 境の構築を含む)

納得解を形成しようとす ることの重要性の明文化 (安易な多数決の回避や少数意

特別活動

(主体的な判断の 重要性、知·德·体 の調和のとれた発達 に向けた、道徳的価 値の対立を乗り越え

る必要性や道徳的

道徳

実践の強調)

考え、議論する

道徳の徹底

見の吟味)

他者と関わり協同する力の育成

言葉を用いて思考を深めていく指導

障害や認知特性等 多様な実態を踏まえた調整 (教科等、家庭学習会計)

全ての活動の基盤としての 心理的安全性の確保

学びをデザインする高度専門職としての教師 「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備 総合的な勤務環境整備

5

転換する世界の教育モデル

日本の特別活動はTokkatsuとして今、国際的に注目されつつある。非認知的能力を再評価し、子ども全体を育てよう(認知的能力だけでなく)という国際的潮流に沿っている。しかし、一時代前、それは逆であった。

- * **非認知的領域、教科以外の領域**は「とらえどころがない」「数値化できない」⇒ 「うさんくさい」+学校が干渉すべき領域でない(家庭とか地域とかの領域)
- *脱宗教、脱共同体、理性と合理的な個人、科学、資本主義・・・を目指した近代西欧の論理からすると、**日本の特別活動を支える論理の多く**、認知とそれ以外が未分化、「望ましい」とされる人間形成の方向性を学校教育が目指す・・・等は**前近代的、おくれたものに見えてきた**
- ⇒今、この近代西欧的論理が行き詰まりが見えている⇒修正・代替モデルの必要性
- *経済格差の拡大、社会の分断、暴力、規範規律の崩壊、感情の統制ができない、個人主義的行動の行き過ぎ等の行き詰まりが議論される中で、非認知的な能力の大切さ、IQだけでなく感情面の育成、社会性の大切さ、子ども全体を育てる大切さ(whole child, total child, holistic, humanistic, etc.)、コロナ禍が拍車をかけた対人関係の場としての学校等が各国で唱えられるようになっている。
- |* 共感を重視し、話し合いによる理解に基づく協働的な日本の行動原理、教育が再評価。人間形成的、価値教育的な色彩が強い特別活動、 Tokkatsuが注目されている(Tokkatsuの名称が使われているかは別)。

日本の特別活動に期待されること国際的なモデル消費国からモデル生成国へ

*他者との関係を方向付ける規範、個人主義的、脱宗教、人間中心、自己実現中心の論理の行き 詰まり

日本:共感、相互扶助、協同的・協働的、共同体性、自己犠牲

かつてはその多くが「個」が弱い、前近代的だとされた特徴が見直される

*制御されない資本主義、経済格差拡大、大量消費の行き詰まり

*アイデンティティの分断(人種、民族、ジェンダー)

日本:集合的アイデンティティ、地域、学校等の単位

ナショナリズム、村落共同体の持つ統制的性格、弊害を乗り越えながら開けた

共感関係を築けるのか

* AI、ICT新時代

日本:対人関係の充実等、いかにAI時代でも豊かな人間性を実現するかを示せるか

日本の教育の弊害や弱点を理解しながら、いかに日本の教育の強さをいかした解決ができるか 人間形成的な観点からすると、特別活動(Tokkatsu)はその中核にある

論点整理から:多文化共生論理の転換

西欧各国で個人主義的な解釈等の従来の論理だけでは多文化共生の実現に行き詰まり 感が出ている…日本が自己の社会・教育の弊害や弱さをその強さで乗り越えながら、 共感・協働的な論理の中から多文化共生のモデルを提示できるのか

論点整理から: AI時代の体験、対面の役割を問う

AIの時代において、AIを用いながらも豊かな対人関係とそれに向けた資質能力を築くようなモデルを提示できるのか、これから期待されている日本の教育が担う人格形成的役割の中核に特別活動Tokkatsuはある

国際社会でずっと優位であった近代(西欧)の論理による教育モデルの行き詰まりの中で、国際社会で日本は、モデル生成国として独自の貢献をすることが今までで一番求められている。

写真は削除してあります。

ありがとうございました